

「九州学院大同窓会 総会懇親会2024」を開催

～讃美歌312番を声高らかに～

＜見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び＞(詩編133)

同窓会の活性化と母校支援の推進

同窓会会長 廣島 秀二(S26回)



同窓会長に就任してから早2年が経過、4月の総会で再任され、会長二期目に入りました。副会長に吉永彰一氏(S36回)を増員して体制を強化、副会長それぞれに役割を分担してもらい、委員会には、前年同様それぞれ委員長と副委員長を置いています。

若手の会・リディア会も頑張ってくれており、常任幹事会などでも、若手委員・女性委員の出席が増えてきています。役員・委員が情報を共有し、役割を分担することにより活動を推進する方向性は、確実に浸透してきたように感じます。

昨年に引き続き大同窓会総会・懇親会を開催することができました。50人を超す教職員・旧職員の先生方にご出席いただき、皆大喜びでした。先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

学院では、生活困窮者への奨学制度を今年度から実施予定と聞いております。新たな奨学制度に対しても同窓会として寄与できればと思っています。昨年来、各支部の活動も活性化しつつあります。同窓会の活性化・母校への支援を推進するためには、同窓生の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後とも同窓会をよろしく願います。



4月19日(金)「九州学院大同窓会定期総会・懇親会2024」が熊本ホテルキャッスルに於いて開催されました。S4回(90歳)からS74回(20歳)までの卒業生、現職の教職員、校友会役員など、遠くは米国や東京、関西等から約450名の参加者を集めました。

総会では、2023年度活動報告・同決算報告・監査報告2024年度活動計画・同予算案等に対しての審議がなされました。また、今年は2年に一度の役員改選の年にあたり、役員選挙委員会から出された改正案は全会一致で無事に承認され、再選された廣島秀二同窓会会長から新役員の紹介が行われました。

続いての懇親会は、藤本一精氏(S36回)と吉田佐知子氏(S53回)の軽妙な司会により進行。冒頭にアトラクションとして九州学院中高チアダンス部が恒例の演技を披露、続いて日笠山吉之チャップレンの奨励により讃美歌312番(いつくしみ深き友なるイエスは)を参加者全員で声高らかに斉唱し、同窓会や学院関係の物故者をおぼえての祈りが捧げられました。

吉永彰一大同窓会実行委員長(S36回)、福田九州学院理事長(S18回)、小副川幸孝九州学院院長による挨拶の後、内村公春第8代九州学院院長の乾杯の発声で宴席に入りました。参加者たちは久々の再会を喜び合い、学生時代の思い出話や近況を語り合うなど歓喜の音が会場に満ち溢れました。最後

われまずよう同窓会会員の皆様のご理解とご協力宜しくお願い申し上げます。

2024年度同窓会活動計画

- 4月 ● 常任幹事会
- 中高入学式 ● 大同窓会(総会・懇親会)
- 5月 ● 育友会(P.T.A)総会で10年会費について説明
- 6月 ● 奨学金授与式
- 同窓会新聞発行
- 9月 ● 常任幹事会
- 10月 ● 奨学生・給費生を励ます会 ● 高校3

この会を開催するにあたり多大なるご尽力を頂きました。卒業回数1と6の付く学年代表からなる大同窓会実行委員会、若手の会、リディア会、祭九学会の役員の皆様、ほんとうにお疲れ様でした。同窓会が来年も盛大に行なわれますよう同窓会会員の皆様のご理解とご協力宜しくお願い申し上げます。

2025年

- 1月 ● 若手の会主催チャペルで二十歳を祝う会 ● 新卒業生クラス幹事との懇親昼食会
- 2月 ● 「九学通信」に「同窓会だより」を掲載 ● 高校卒業生(S77回)に同窓会活動の案内
- 3月 ● 高校卒業式 ● 新卒業生に記念品贈呈 ● 新卒業生に記念品贈呈 ● 常任幹事会
- ※ 正副会長会、拡大正副会長会、適宜開催の予定
- ※ 各委員会・育英奨学・渉外・企画・広報および若手の会・リディア会、適宜開催の予定
- ※ 各地域支部の総会に、学校の教職員とともに同窓会役員が出席予定

4月19日(金)「九州学院大同窓会定期総会・懇親会2024」が熊本ホテルキャッスルに於いて開催されました。S4回(90歳)からS74回(20歳)までの卒業生、現職の教職員、校友会役員など、遠くは米国や東京、関西等から約450名の参加者を集めました。

総会では、2023年度活動報告・同決算報告・監査報告2024年度活動計画・同予算案等に対しての審議がなされました。また、今年は2年に一度の役員改選の年にあたり、役員選挙委員会から出された改正案は全会一致で無事に承認され、再選された廣島秀二同窓会会長から新役員の紹介が行われました。

続いての懇親会は、藤本一精氏(S36回)と吉田佐知子氏(S53回)の軽妙な司会により進行。冒頭にアトラクションとして九州学院中高チアダンス部が恒例の演技を披露、続いて日笠山吉之チャップレンの奨励により讃美歌312番(いつくしみ深き友なるイエスは)を参加者全員で声高らかに斉唱し、同窓会や学院関係の物故者をおぼえての祈りが捧げられました。

吉永彰一大同窓会実行委員長(S36回)、福田九州学院理事長(S18回)、小副川幸孝九州学院院長による挨拶の後、内村公春第8代九州学院院長の乾杯の発声で宴席に入りました。参加者たちは久々の再会を喜び合い、学生時代の思い出話や近況を語り合うなど歓喜の音が会場に満ち溢れました。最後

われまずよう同窓会会員の皆様のご理解とご協力宜しくお願い申し上げます。

2024年度同窓会活動計画

- 4月 ● 常任幹事会
- 中高入学式 ● 大同窓会(総会・懇親会)
- 5月 ● 育友会(P.T.A)総会で10年会費について説明
- 6月 ● 奨学金授与式
- 同窓会新聞発行
- 9月 ● 常任幹事会
- 10月 ● 奨学生・給費生を励ます会 ● 高校3

この会を開催するにあたり多大なるご尽力を頂きました。卒業回数1と6の付く学年代表からなる大同窓会実行委員会、若手の会、リディア会、祭九学会の役員の皆様、ほんとうにお疲れ様でした。同窓会が来年も盛大に行なわれますよう同窓会会員の皆様のご理解とご協力宜しくお願い申し上げます。

2025年

- 1月 ● 若手の会主催チャペルで二十歳を祝う会 ● 新卒業生クラス幹事との懇親昼食会
- 2月 ● 「九学通信」に「同窓会だより」を掲載 ● 高校卒業生(S77回)に同窓会活動の案内
- 3月 ● 高校卒業式 ● 新卒業生に記念品贈呈 ● 新卒業生に記念品贈呈 ● 常任幹事会
- ※ 正副会長会、拡大正副会長会、適宜開催の予定
- ※ 各委員会・育英奨学・渉外・企画・広報および若手の会・リディア会、適宜開催の予定
- ※ 各地域支部の総会に、学校の教職員とともに同窓会役員が出席予定

九州学院同窓会役員・委員長および常任幹事

◎ 役員

顧問	松村 敏人 (S6回)	土山 研三 (S8回)
	内村 公春 (元院長)	阿部 英樹 (S28回)
	山崎 恒雄 (S21回)	小副川 幸孝 (院長)
相談役	浅川 牧夫 (S12回)	岡嶋 勇治 (S14回)
	堤 公一 (S18回)	緒方 徹 (S18回)
会長	廣島 秀二 (S26回)	
副会長	石橋 金治 (S25回)	三浦 陽二 (S28回)
	坂田 和洋 (S31回)	大久保孝介 (S32回)
	橋口 武弘 (S35回)	吉永 彰一 (S36回)
	杉本 素一 (S39回)	
監査役	高野 正晴 (S23回)	井手 庸文 (S25回)
	井 雅之 (S47回)	
事務局長	藤井 宏昭 (S39回)	会員委員長
育英奨学委員長	青山 正志 (S30回)	瀬口 大資 (S36回)
企画委員長	松永 修尚 (S34回)	渉外委員長
若手の会会長	土師 英嗣 (S53回)	緒方 邦也 (S47回)
		広報委員長
		小手川 勲 (S24回)
		リディア会会長
		後藤佑佳子 (S49回)

◎ 常任幹事 207名

◎ 同窓生数 35,258名 (2024年3月現在 物故者を含む)

九州学院同窓会

発行
九州学院同窓会
責任者・廣島秀二
編集人・小手川勲
熊本市中央区大江5丁目2-1
九州学院内
096-366-4533
<https://kyugakudousokai.jp>
題字は
紫垣正弘・元同窓会会長



に堤建太氏(S52回)のエルとリードにより参加者全員で九州学院校歌を唄い、同窓会若手の会の土師英嗣新会長(S53回)の元氣溢れるメの言葉で無事にお開きとなりました。

(S1回卒は1948年卒業)

九州学院では、1948年度の新制高校の第1回の卒業生(1946年入学)をSenior(高校)の頭文字をとってS1回、新制中学校卒業生は1948年が第1回となり、J(Junior)1回と呼びます。因みに2024年3月の卒業生はS76回、J77回です。

令和6年度祭九学会 会長 川上 将史 (S52回)

今年度、祭九学会の会長を務めますS52回の川上将史です。我々九学会は今年も藤崎八幡宮秋例大祭に参加し皆様のご協力を宜しくお願い致します。

今年度、祭九学会の会長を務めますS52回の川上将史です。我々九学会は今年も藤崎八幡宮秋例大祭に参加し皆様のご協力を宜しくお願い致します。

同窓会終身会費納入者に 記念バッチを贈呈

2019年から同窓会終身会費(満60歳以上対象一括1万円、60歳未満は2万円)を納入された方に返礼として有田焼の特製九学バッチをお渡ししています。なお、年会費は2000円となっておりますので皆様のご協力を宜しくお願い致します。

祭九学会

グッズ販売のご案内
九学会S52回実行委員会
TEL:090-5929-4379
(川上)



●Tシャツ ●パーカー ●ゴルフマーカー ●タオルなどをご用意しております。



北朝鮮拉致被害者 松木薫氏(S24回)の救出を

松木氏は1980年スペイン留学中に拉致され、現在も北朝鮮に抑留。弟の信宏氏(S43回)が拉致被害者家族会で活動中。

令和6年度の光村図書の 書写の教科書に掲載

～使用済み書道紙のリサイクル運動～

(社)エコ再生紙振興会 専任理事兼事務局長 池田 光希(S37回)



書道の世界に入り、約二十年はがむしゃらに自分の為に生きておりましたが、気がつけば40歳。妙に冷静に立ち止まった時に、これからは当たり前が通用しなくなっていく時代への危機感が強くなりました。書道界の各

展覧会出品減少は既に始まっており、野球あがりの私を育ててくれた業界に何か出来る事はないかと、以前から懸念していた使用済み書道紙の再生、活用事業を立ち上げました。書道界屈指の著名な先生方に賛同を求め理事団を結成し、社団法人を設立しました。封建的で師弟世界の業界ですから、かなり反発もありましたが、揺るがぬ信念のみで進めてきました。また、書道の未来と活性化を図るには小中学校との共創は不可欠と、まずは神奈川県西部地区の市町長や教育長に提案して回り、一斉に賛同を得て学校での実施定着が進みました。

先般記事にして頂いた毎日書道顕彰、循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の授賞、更には令和6年度の光村図書の書写教科書に掲載紹介される運びとなりました。特に戦後から、墨のついた書道紙は再生不可の禁忌品扱いでゴミにしかならなかったのですが、今や実施する小中学校では、そのゴミが教材に甦るリサイクルが実現しています。



「僧侶が起つ」の
新書出版
荒牧邦三氏(S18回)

元熊本日日新聞社の記者の荒牧邦三氏はこのほど「僧侶が起つ

の記者の荒牧邦三氏はこのほど「僧侶が起つ

の記者の荒牧邦三氏はこのほど「僧侶が起つ

支部等で同窓会開催

5月20日 県庁九学会
6月8日 阿蘇中部九学会
6月22日 若北九学会
6月29日 関西九学会(予定)
7月6日 東京九学会(予定)



ヤクルト村上宗隆内野手は、5月15日、松山中央公園野球場で行われた広島戦において、矢崎拓也投手から第9号の本塁打を放ちました。このホームランは通算2000号の記念すべきもので村上選手は24歳3ヶ月(2000年2月2日生)での達成となり、これまでの最年少記録だった元巨人などで活躍した清原和博氏の24歳10ヶ月を

7人制ラグビー
日本代表でパリ五輪へ
石田大河氏(S68回)

九学ラグビー部OBの石田大河選手(S68回・2016年卒・浦安D-Rocks)は、昨年大阪で行われた7人制ラグビー(男子)のアジア予選で優勝し「パリ五輪」(7/24)

ドジャース山本由伸
投手の専属通訳に
園田芳大氏(S48回)

本年2月、九州学院OBの園田芳大氏(S48

父で元参議院議員・国

玉川大学4年生の浜

6月19日(水)、1号館

今年度の育英奨学金

今年度の育英奨学金

今年度の育英奨学金

今年度の育英奨学金



プロ野球史上最年少
2000本塁打を達成
村上宗隆氏(S70回)

7ヶ月程上回り、史上最年少で2000号を達成し、記録を更新しました。90年の長きにわたる日本プロ野球史上、偉大なる記録を樹立したことは実に素晴らしいこと

重工相模原ダイナボ

回・1996年卒)が、米国メジャーリーグロサンゼルスドジャース球団職員として山本由伸投手の専属通訳に決まり、現在メディアでも大活躍中です。園田氏は豊野中・九州学院高時代には柔道部に所属して活躍、京都の龍谷大卒業後に単身渡米し、ニューヨークの映画会社などの照明関係技術者として業績を残して来ました。しかし、映画業界が近年長期ストライキに入ったことで山本選手の専属通訳の公募に応募して抜擢されたものです。

土庁長官の清充氏(旧中22回・1937年卒)と三代にわたる九学ファミリーであることも誇らしいことです。

代表として出場し見事銀メダルを獲得しました。同大会は、国際オリンピック委員会(IOC)の正式承認を受けている国際団体「ICU(International Cheer Union)」が主催する世界最大規模の大会です。浜崎選手は中高の6年間九州学院チアダンス部に所属し、高校では主将として全国大会に出場するなどの活躍をしました。今後のさらなる活躍が期待されます。

八代 都築小作争議を主導した男・田辺義道(二熊日新書を出版しました。大正末期から昭和初期にかけて八代の郡築干拓で

の地主と入植者の農業史に残る小作争議を人道的に主導した、地元隆法寺の僧侶・田辺義道氏を中心に郡築小作争議の全容を描いた力作です。労働運動や部落解放運動など、弱者に寄り添う取材をライフワークとしてきた著者にふさわしい内容となっています。

九州学院のシンボルともいえる、創立者C・L・ブラウン博士を記念したブラウンメモリアルチャペルは、1925年に竣工し、同年10月30日に献堂式が盛大に行われました。そして来年2025年に献堂百周年を迎えることとなります。

同チャペルは米国人の建築家ヴォーリズの設計で、鉄筋コンクリート作り木造小屋組のロマネスク風スタイルの優美な建物です。一部二階建ての750席を有する会堂で、聖壇脇の控室の地下室にはボイラーがあり、スチーム暖房の装置が設置されていました。第二次世界大戦の時、金属供出で撤去されました。

8/11)に日本代表として出場します。日体大では主将として活躍し、卒業後に男子の日本代表チームにメンバー入りしバックスとして存在感を示して来ました。アジア大会の決勝戦では前半同点のトライを決めるなど攻守で日本の勝利に大いに貢献しました。なお、父真也氏(S43回)は九学初の花園ラガー、兄一貴氏(S66回・三菱重工相模原ダイナボ

回・1996年卒)が、米国メジャーリーグロサンゼルスドジャース球団職員として山本由伸投手の専属通訳に決まり、現在メディアでも大活躍中です。園田氏は豊野中・九州学院高時代には柔道部に所属して活躍、京都の龍谷大卒業後に単身渡米し、ニューヨークの映画会社などの照明関係技術者として業績を残して来ました。しかし、映画業界が近年長期ストライキに入ったことで山本選手の専属通訳の公募に応募して抜擢されたものです。

玉川大学4年生の浜崎くらら選手が所属するダンスドリルチームJULIASは、4月24日から米国フロリ

6月19日(水)、1号館会議室において2024年度九州学院ナルドの奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

シリーズ
羽ばたく同窓生

8/11)に日本代表として出場します。日体大では主将として活躍し、卒業後に男子の日本代表チームにメンバー入りしバックスとして存在感を示して来ました。アジア大会の決勝戦では前半同点のトライを決めるなど攻守で日本の勝利に大いに貢献しました。なお、父真也氏(S43回)は九学初の花園ラガー、兄一貴氏(S66回・三菱重工相模原ダイナボ

回・1996年卒)が、米国メジャーリーグロサンゼルスドジャース球団職員として山本由伸投手の専属通訳に決まり、現在メディアでも大活躍中です。園田氏は豊野中・九州学院高時代には柔道部に所属して活躍、京都の龍谷大卒業後に単身渡米し、ニューヨークの映画会社などの照明関係技術者として業績を残して来ました。しかし、映画業界が近年長期ストライキに入ったことで山本選手の専属通訳の公募に応募して抜擢されたものです。

玉川大学4年生の浜崎くらら選手が所属するダンスドリルチームJULIASは、4月24日から米国フロリ

6月19日(水)、1号館会議室において2024年度九州学院ナルドの奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

今年度の育英奨励学生に対する認定式が行われました。この制度は1981年の創立70周年記念事業の一環として1983年から九州学院同窓会が始めた育英奨励事業が、2015年から九州学院ナルドの壺基金に組み入れられて継続しているものです。現在、中高に在籍する奨励学生A有資格者の中から特に優秀であると認められた

百年を迎えるチャペルは「心の故郷」 ～恵みの居場所をつくる～

関西九学会副会長 田中 雅弘(S45回)



一昨年、滋賀県近江八幡市にある「ヴォーリス記念館」を訪れたのは、その礼拝堂が、自分にとって、ただ単に高校時代を懐かしみ、回想するだけではなく、今日の価値観や考えに、大きな影響を与えた「私自身のふるさと」その心を感じるからです。そのルーツを訪ねまし

た。1925年(大正14年)竣工、献堂式を行った九州学院「ブラウン・メモリアル・チャペル」は、創立者C.L.ブラウン博士を記念し建設され、2025年(令和7年)献堂百周年を迎えます。ロマネスク様式による小屋組木造化粧トラストの礼拝堂は、重厚な雰囲気の中にも、優美で洗練された、建築家ヴォーリス独特の意匠が施されています。高校時代、ラグビー部だった私は、その当時、ゴールポストの奥にある礼拝堂を眺めながら、日々、楕円の飛球を追ひ、時には隠れていた私を見守って下さいました。また、クリスマス礼拝など、賛美歌を歌い慣れ親しんだ、「唯一無二」の思い出深い礼拝堂です。戦火を逃れ、老朽化による度重なる取り壊しの危機、熊本地震による天災を乗り越えて、今日の荘重な礼拝堂の雄姿を見ると、卒業して今もなお、「原点回帰」する場所であるとともに、「未来への新しい扉」を開く学院の象徴的な礼拝堂として、これからも見守り続けて欲しいと願って止みません。祝 献堂百周年、未来永劫を祈念して。

ブラウンメモリアルチャペル 2025年に献堂から二世紀

九州学院のシンボルともいえる、創立者C・L・ブラウン博士を記念したブラウンメモリアルチャペルは、1925年に竣工し、同年10月30日に献堂式が盛大に行われました。そして来年2025年に献堂百周年を迎えることとなります。

同チャペルは米国人の建築家ヴォーリズの設計で、鉄筋コンクリート作り木造小屋組のロマネスク風スタイルの優美な建物です。一部二階建ての750席を有する会堂で、聖壇脇の控室の地下室にはボイラーがあり、スチーム暖房の装置が設置されていました。第二次世界大戦の時、金属供出で撤去されました。

歴史を重ねるにつれて老朽化し、また白アリなどの侵食などが原因で雨洩りがひどくなり、1974年の旧本館の解体に引き続きチャペルの取り壊しの計画も浮上しました。しかしながら同窓生の有志が、旧本館はやむを得ないとしてもこの講堂は自分たちの青春の思い出、心の拠りどころとして永久保存を貫きたいという趣意書を提出して保

歴史を重ねるにつれて老朽化し、また白アリなどの侵食などが原因で雨洩りがひどくなり、1974年の旧本館の解体に引き続きチャペルの取り壊しの計画も浮上しました。しかしながら同窓生の有志が、旧本館はやむを得ないとしてもこの講堂は自分たちの青春の思い出、心の拠りどころとして永久保存を貫きたいという趣意書を提出して保

歴史を重ねるにつれて老朽化し、また白アリなどの侵食などが原因で雨洩りがひどくなり、1974年の旧本館の解体に引き続きチャペルの取り壊しの計画も浮上しました。しかしながら同窓生の有志が、旧本館はやむを得ないとしてもこの講堂は自分たちの青春の思い出、心の拠りどころとして永久保存を貫きたいという趣意書を提出して保

歴史を重ねるにつれて老朽化し、また白アリなどの侵食などが原因で雨洩りがひどくなり、1974年の旧本館の解体に引き続きチャペルの取り壊しの計画も浮上しました。しかしながら同窓生の有志が、旧本館はやむを得ないとしてもこの講堂は自分たちの青春の思い出、心の拠りどころとして永久保存を貫きたいという趣意書を提出して保

歴史を重ねるにつれて老朽化し、また白アリなどの侵食などが原因で雨洩りがひどくなり、1974年の旧本館の解体に引き続きチャペルの取り壊しの計画も浮上しました。しかしながら同窓生の有志が、旧本館はやむを得ないとしてもこの講堂は自分たちの青春の思い出、心の拠りどころとして永久保存を貫きたいという趣意書を提出して保